

家庭教育力の強化を図ろう

～ PTA 合同あいさつ運動と「心とからだハッピーチャレンジ」を通して ～

みよし市立黒笹小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本学区は、みよし市北部に位置し、日進市に隣接する黒笹行政区と豊田市に隣接する三好丘あおば行政区から成り立っている。戸建てが多い新興住宅街で、核家族世帯の割合が高い。平成19年に開校した当時は600名超の児童数であったが、平成23年の742名をピークに減少傾向に転じ、現在は394名が在籍している。

本校は、創立19年目を迎えた。学校支援ボランティアの活動が充実しており、図書ボランティア、読み語りボランティア、英語ボランティア・家庭科等の授業支援ボランティアとして、保護者や地域の人が積極的に教育活動に参加している。また、近年のPTA活動については、活動計画の見直しや役員の負担軽減、ICTを活用した役員会議・打ち合わせの効率化、学校支援ボランティア「黒 笹っ子みらい応援団」との連携等、様々な改革を実施してきた。令和6年度からは役員の数を半分に減らしながらも、充実したPTA活動を維持している。

2 研究のねらい

本校は「いい顔、いい声、いい心。はじまりはあいさつから」を合言葉に、あいさつに力を入れている。学校で身に付けたあいさつの習慣を校外にも広げ、地域や家庭内でも明るいあいさつが交わされる学区にしていきたい。また、みよし市は毎月10日を「メディアバランスDAY」と設定し、子どもたちが電子メディアとの付き合い方を考え、望ましい生活習慣を身に付けられるように取り組んでいる。子どもに対する働きかけだけでなく、保護者が一緒に考える機会にしていくことで、家庭教育力の向上につなげることをねらいとした。

3 研究の仮説

子どもが学校で取り組んでいることを家庭へと広げ、保護者も積極的に関わることができる活動をPTAと学校が連携して実践していくことで、家庭教育力の向上につなげることができるであろう。

4 研究の方法

研究のねらいをもとに、以下の方法で研究を進めた。

- (1) PTA合同あいさつ運動「にこにこウィーク」を実施し、あいさつの輪を広げる。
- (2) 毎月10日の「みよし市メディアバランスDAY」に合わせ、心と体の生活点検「心とからだハッピーチャレンジ」を実施する際に、親子で取り組むことができるようとする。

5 研究の実践

- (1) P T A合同あいさつ運動「にこにこウィーク」

ア P T Aと学校で実施時期の調整

4月のPTA役員会で、学校から年間行事予定を示してもらい、PTAが参加・協力する活動を計画している。その一つがPTA合同あいさつ運動である。主体となるのは、子どもの運営委員会であるが、例年、実施時期は学校で設定している6月と12月の人権週間「にこにこウィーク」に一週間ずつ行うことになっている。

イ 保護者への参加の呼び掛け

あいさつ運動には、PTA役員だけでなく、一般会員である保護者にも参加してもらいたいので、「PTAからのお知らせ」として、きずなメールを使って配信を行った。普段から登校時に通学団に付き添ってくださる保護者が、そのまま正門でのあいさつに加わったり、わざわざあいさつ運動のために来校したりする保護者や地域の方もみえた。子どもも保護者の参加を得て、いつも以上に張りきってあいさつする姿が見られた。また、保護者から「とっても元気のいいあいさつだね」とか、「笑顔がすてきだね」といった言葉をかけてもらえることが、子どもの自己有用感の向上にも寄与していると感じた。

(2) 心と体の生活点検「心とからだハッピーチャレンジ」

ア 親子で話題にできるチャレンジカード

電子メディアへの関わり方について親子で話をするためには、きっかけが必要である。このチャレンジカードは、年間を通して活用するので、毎月の状況が比較しやすく、保護者のサイン欄や保護者からの感想欄も設けてある。電子メディアの使用は長時間化が問題となっているため、家庭で使用ルールを話し合うきっかけにもなっている。

イ 保護者の感想をフィードバックする

養護教諭から発行する「保健だより」に、子どもの取組の様子だけでなく、保護者の感想も掲載することで、保護者に関心をもって親子で取り組んでもらえるようにした。感想としては、「家族で取り組んだ」「時間を自分で決められるようになった」「ルールを守ろうという意識が高まった」「(メディアバランスDAYの次の日は)朝から元気な様子だったので良かったと思う」というものが寄せられている。

6 研究の考察

あいさつ運動の取組がどの程度家庭教育力の向上に効果をもたらしているかは計ることができないが、参加した保護者からの子どもへの言葉かけによって、子どもが生き生きとした姿を見せていることを伝えていくことで、家庭でもあいさつの習慣を意識してもらえるのではないかと推察している。また、「心とからだハッピーチャレンジ」については、保護者の感想からも、家庭で電子メディアの使用について話し合い、生活を見直すきっかけになっていると考えられる。

7 成果と今後の課題

すでにこれまで取り組んできた、PTA合同あいさつ運動や「心とからだハッピーチャレンジ」に、「家庭の教育力を高める」という視点を盛り込んで実践してきたことによって、一定の成果はあったものと自負している。今後は、こうした活動の意図をどのように家庭に伝えていくかが課題であるが、常にねらいをもってPTAとしてできることに取り組んでいきたい。